

「福祉は人なり」

地域支援課 課長 吉田 丈夫

秋の気配が日ごとに深まり、しのぎやすい気候となって参りました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

今夏も記録的な猛暑に加え、4年に一度のオリンピックが開催され、日本中が熱気に包まれた夏であったと思います。

さて、私事ではありますが、平成28年4月をもって、勤続20年を迎えることが出来ました。20年前の障害者福祉の制度は「措置制度」でしたが、生活様式の変化や生活ニーズの変化に対応していくために社会福祉制度を見直し、作り変えるために「社会福祉基礎構造改革」が行われ、「支援費制度」「障害者自立支援法」、そして現行の福祉制度である「障害者総合支援法」へと障害福祉施策は変遷を重ねてきました。

以和貴会においても、「ゆらくの里」以外に日中活動支援事業所、放課後等デイサービス、グループホーム、ホームヘルプサービスの事業所を作り、地域の親元で暮らす方へのサービス提供の拡充に努めると共に、当事者や家族の生活をより豊かにするため、ご相談をお受けする「生活支援センター」を設置するなどの取組を実行しています。

私は現在、ホームヘルプ事業、グループホーム事業、相談支援事業を管轄する地域支援課に配属され、日々の業務としては相談支援事業を担当させて頂いています。相談支援事業を担当して思うことは地域には福祉サービスが必要としながらもサービスや支援につながっていない人がたくさん存在しているということです。たとえ直接報酬や収入につながらないような活動ではあっても、地域に潜在化している福祉ニーズを把握し、救済するというセーフティネットの役割を果たすためには、地域に出て行く必要があります。例えば、こまめに足を運び、ご本人や家族、地域住民に対し、働きかけたり、相談援助活動を行ったりすることで、地域で暮らす人が福祉とつながる機会を作り出し、福祉サービス等を通じて、施設・法人の役割を知って頂くことよって、地域の方にとって困った時に気軽に相談できる『頼れる法人』であり、相談員となります。

また、地域の頼れる存在として、『かかりつけ』『駆け込み寺』的な役割を發揮していく中で、さらに地域にあるニーズを把握していくことができるのではないかと。そして、ニーズと課題をみんな考え、創造していくことが誰もが暮らしやすい町を作って行けるのではないかと考えています。担当する地域支援課としてはグループホームの増設やホームヘルパーの確保・養成を行い、今後も地域で必要とされる福祉サービスを充実させていきたいと考えています。

「変わるもの・変わらないもの、変えてはいけないこと、変えなければならぬこと」を見極め、受け止め、多くの方の協力を得ながら、より良い地域づくりに貢献していきたいと思えます。



法人内事業所紹介 ～地域支援事業～

■ 生活支援センターshake「しえ〜く」

しえ〜くでは、以和貴会の法人理念の「人として当たり前の暮らしとその人らしい人生を支えたい」を基に「サービス等利用計画」（児童は障害児支援利用計画）の作成を通して、障がいのある人達が本人らしく地域で暮らしていくことを実現していくための相談支援をおこなっています。地域の関係機関や法人内の各事業所とも連携をとりながら、「地域で暮らす」「やりたいことを実現する」を支援しています。「困っている、わからない、悩んでいる」それぞれの思いに寄り添いながら、専門的な支援を行い、各種サービスや事業の紹介、利用調整、アフターフォローなども行っています。



相談支援の様子

《支援方針》

本人や本人に関係する人達(家族、利用する事業所の職員、学校、職場など)と共にサービス等利用計画の作成を行い、本人がより豊かな生活を送れるように支援していきます。計画だけでなく、実現方法を一緒に考え、その人らしい生活が送れるよう応援します。

現在、男女各 2 名の相談員がおります。生活や活動においてのお悩みや困っていること、希望がある方は、ご連絡下さい。

■ グループホーム Noa「のあ」



現在、12 名の方が『のあ』で生活されています。

ご利用者が希望する暮らしの実現をお手伝いすることを目標とし、食事などはご利用者と一緒に準備や片付けを行っています。余暇活動として、買い物やクッキング、家庭菜園などを行なっています。家庭菜園で採れた野菜は食事の時に美味しくいただきます。

あるご利用者は「24 時間テレビ」の為に、日々、貯金箱にお金を貯めて、放送日に大阪まで募金に行かれています。もう 5 年になります。そのことに感化されてか、募金をする人が増えました。



「のあ」の建物の様子



クッキングの様子

■ 居宅介護事業 そ〜る123(ワンツースリー)

そ〜る123では、主に外出支援のサービスを行っています。

外出する前に、ご利用者がヘルパーと一緒に行き先や活動の内容を決めてから実施します。

“楽しみ”のお手伝いの他、ご自身での電車の利用や買い物の経験などを通して、経験値アップの支援も行っています。

見通しがつきにくかったり、周囲の状況が理解できなかったりするために不安定になってしまう方に対しては、ご本人に適した「わかる手立て」を考えて支援します。



外出の様子



ゆらくの里 夏期施設内研修

8月10日



今年度の夏期施設内研修のテーマは『救急救命講習』です。

ゆらくの里ではご利用者の高齢化が進んでおり、その為、病気や怪我のリスクが高まっています。緊急事態が発生した場合、すぐに救急車を呼んでも、ゆらくの里に到着するまで10～15分かかります。その間に私たちは何が出来るのかを学んでおく必要があります。

ゆらくの里では過去にAEDが必要な出来事が発生しています。今後も同様の事があった場合、職員がAEDの使用方法を知らない、使えないということは絶対にあってはいけない事です。そのような場合に、迅速に対応する事が出来るよう今回の講習会を企画しました。

講習会の講師として、香芝消防署員の方にお越しいただきました。

今回の研修にはゆらくの里だけでなく、他事業所職員からも参加希望があり、計39名が参加しました。参加者全員が実際に体験出来る様、10名前後のグループに分かれ、午前午後と1日かけて消防署員の方に詳しく丁寧に教えて頂きました。

講師の方に使用方法の説明及び実演を行って頂いた後、一人一人、実際に人形を使って心肺蘇生・AEDの使用についての実践を行いました。実際に体験すると、間違えて覚えていたことも多く、改めて、この講習会の重要性が身に染みました。



夜勤を想定しての実演



救命処置について詳しく教えて頂きました

全員が一通り練習を終えた後、各グループの代表者が前に出て、ゆらくの里の夜勤を想定しての実演を行い、講師の方に対処法等の詳しい指導を頂きました。

この講習会を受講するまでは、私自身、緊急時に冷静に対応できるかどうか不安がありました。

しかし、受講し正しい知識を学んだことで、自信が生まれてきました。

参加した職員からも学ぶことが多くあり良かったとの意見が聞かれました。これで満足するのではなく、これから更に訓練を繰り返していき、ご利用者の命をお守り出来るよう万全の準備をしていきます。

ゆらくの里 研修担当 小川 裕太

第3回 「IWAKI 夏フェス」 開催 7月30日

一昨年、昨年に引き続き 「第3回 IWAKI 夏フェス」 を開催いたしました。開催場所も昨年同様に香芝市保健センター前駐車場を利用し盛大かつ賑やかに楽しいお祭りを皆様と共に楽しみました。



今年のテーマは「みんな一緒に夏祭り」～障がいのある人もない人も一緒に楽しもう～

今年も香芝市長 吉田弘明様のご挨拶を頂戴し、お祭りの雰囲気が高まる中で香芝天衝太鼓の皆様による盛大なパフォーマンスによって幕が開きました。会場中が一気に盛り上がり夏フェス開始を地域全体に告げているようです。



テーマにある「みんな一緒に」を意識しながら、以前よりもっと地域とのつながりを強く感じられる様に開催される催し物は全て地域の皆様によるお力添えを頂き披露して頂きました。

社会福祉法人裕愛会 せいか保育園の園児たちによるソーラン節と和太鼓、地域団体ならんちゅ様による沖縄民謡演舞エイサー、香芝よさこい連と香芝市職員皆様によるよさこい演舞・・・と前半だけでも見どころ満載で会場は大盛り上がりでした。



(上) 香芝市長 吉田弘明様
(下) 香芝天衝太鼓の皆様



お祭りの楽しみは催し物だけではありません。

夏フェス名物 「模擬店めぐり」も見逃すことは出来ません。

香芝市身体障害者福祉協会様をはじめ香芝市身体障害者福祉協会様、香芝市更生保護女性会様、遊友会様、社会福祉法人 青葉仁会様、社会福祉法人 萌様、社会福祉法人 わたぼうしの会様・・・等のご協力によりたくさんの模擬店を出店する事が出来ました。

焼きそば、カレーライス、フランクフルトにホットドッグ、たこやき、から揚げ、その他色々、何から食べようかと迷う事必至です。

小さいお子様には無料でお配りした綿菓子やポップコーンが大好評で長蛇の列が出来ていました。



(上) ゆらくの里家族会の冷しパン
(下) 大盛況の綿菓子&ポップコーン

楽しい時間を過ごしているうちに夕暮れ時になり夏フェス後半の開始です。

香芝市立香芝中学校ブラスバンド部の皆様による演奏が始まります。

数多くのコンテストで素晴らしい成績を残されている

奈良県で一番の「ブラスバンド演奏」は圧巻です。

会場全体がその素晴らしさに感動し見惚れてしまいました。



香芝中学校ブラスバンド部の皆様



感動と共に夕闇が迫ってくると会場全体に提灯の明かりがとまります。その雰囲気の中で江州音頭二上会様による江州音頭の歌声と共に博扇会様の盆踊りの始まりです。ご来場の皆様も次々に踊りに加わり櫓の周りに大きな踊りの輪が出来ています。障がいのある人もない人も一緒にあって笑顔で踊っている姿は本当に楽しそうです。

江州音頭二上会様による盆踊り

いっぱい踊って楽しんで疲れた頃に夏フェス最後のイベント、夏フェス大花火の開始です。司会者のコメントと共に会場から南の空に目を向けると大きな音と共に夜空に大きな光の花が咲きます。会場全体に大歓声が上がりその声に応える様に次々と大花火が打ち上げられていきます。色とりどりの閃光に照らされた会場内には、障がいのある人もない人も全ての人が笑顔で隣にいる人に声を掛け合いながら楽しまれている様子は本当に「みんな一緒に夏祭り」を体現していると会場にいる誰もが感じていたと思います。

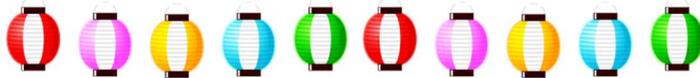
夏フェスのメインイベント“大花火”



このような素晴らしいお祭りの開催にご協力くださいました香芝市行政関係の方々、地域住民の皆様、学校関係者及び児童生徒の皆様、社会福祉法人の皆様、そしてご協賛下さいました企業ならびに個人の方々、ボランティアの方たちなど、本当に多くの方のお力添えがあって初めてなし得たお祭りだと実感しております。

この夏フェスにお力添え頂いたすべての方に感謝の意を申し上げたいと思います。

今回の感動を忘れずに来年の「第4回 IWAKI 夏フェス」を開催できるように頑張りますのでご期待して頂けますよう 宜しく申し上げます。



第3回 IWAKI 夏フェス実行委員長 吉岡 弘三

ご協力いただきました皆様

井伊政光、中塚正人、川本明広、井上猛、塩谷秀樹・正樹、吉原成信、古川義生、若槻良幸、森脇昌三、田中健太郎、(株)タクサン、新世紀建工、(株)大和信用金庫、(株)フード・デリ、源開発(株)、Ryo設計室、船木二男、吉川自動車、ジュルネフーズ(株)、岡村プロテックス(株)、ゆらくの里家族会、クボタ食品工業、愛の会(今人家族会)、(株)八百丑、(株)ステップワン、戌亥幸秀、山本珈琲(株)、イドタフレスコ(株)、メットライフ生命(株) (順不同 敬称略)

ほか匿名希望の方多数より協力いただきました。ありがとうございました。

アート活動「アトリエ それいゆ」便り

いよいよ芸術の秋が深まってまいりました。アトリエそれいゆの皆さんも、芸術活動への熱が入り、様々な公募展への応募手続きが慌ただしくなっています。今回は、8月の公募展の審査結果や近日中の展覧をご紹介します。

■芸術展参加情報

□『プライベート美術館・お見合い展示』開催

今年も「奈良県障害者芸術祭 HAPPY SPOT NARA2016-2017」（奈良県主催）の一環で開催される「プライベート美術館」の、お見合い展示が開催されます。

「プライベート美術館」では、奈良町周辺のカフェやショップにてお店のオーナーさんが選んだ、障がいを持たれた方が制作された作品が展示されます。お見合い展示では、応募作品が一挙公開され、毎年大勢の方がご来場されます。

〈お見合い展示 会期〉

2016年11月2日（水）～11月4日（金）

〈会場〉

「きらっ都・奈良」

奈良市橋本町3-1（近鉄奈良駅から徒歩5分）



吉原成信『ほとけさま』



唯吉茜『火山大噴火』



内田千恵『fraise』



西谷光世『よりそう-ゾウの親子-』



小山加尉『m. a. p』



高嶋和江『にじいろ』



植田隆介『my favorite things』



山口裕樹『デジタルフィッシュ
-恋するおさかな-』

□西谷光世さん 二科展デザイン部準入選

アトリエそれいゆの西谷光世さん（所属：我楽さぽーと）の作品「竜宮のお使い」が、「二科展デザイン部」に準入選されました。

今回で101回目を迎える二科展で、プロのデザイナーが切磋琢磨して発表した作品の中で、とても健闘されました。来年は「入選」を目指して頑張りたいです。



西谷光世『竜宮のお使い』

前号でご紹介させていただきました登大路総合法律事務所様のように、アールブリュットに関心のある方が、少しずつ増えつつあります。

また、一度お店に飾ってみると「また次も飾ってみたい」と、プライベート美術館に参加されたショップのオーナーさんは、この取り組みをとっても楽しみにしている様子です。

障がいのある人のアートが注目されるようになり、多様なアートイベントが増える中、来年は奈良県にて「第32回国民文化祭・なら2017」と「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」が全国で初めて一体開催されます。ますますアートが熱くなる奈良。これからが楽しみです。

障がいのある人の芸術を通して、多くの方に喜びの和・幸せの和が広がっていくように、取り組んで参りたいと思います。

アート活動「アトリエ それいゆ」
岡橋 三起子

ゆらくの里 花火大会 8月12日

今年も、夏期帰省期間中にゆらくの里へ残られた方の為に花火大会を開催しました。

当初心配していた雨も降らず、綺麗な星空の下での実施となりました。まずは、それぞれで手持ち花火を楽しんで頂きました。ご利用者様は自然と笑顔が溢れ、とても楽しそうでした。花火は2袋購入していましたが、あっという間になくなってしまいました。次に行なった噴射花火では、迫力のある美しさにご利用者もとても喜んでおられました。夏の風物詩である花火を楽しんで頂き、とても素敵なひとときとなりました

ゆらくの里 生活支援員 大内 彩葉



風鈴山荘 かき氷大会 8月12日

風鈴山荘には、大規模なイベントが苦手な方が多くおられますが、障がい特性に配慮し環境を整えれば、皆さん自分からイベントに参加して下さいます。今年はそうした中で、かき氷大会を開催しました。

ご利用者は思い思いに氷を削り、好きな味のシロップを掛けたかき氷が完成すると、食堂や自室で召し上がるなど、それぞれの形で楽しめました。

今後も、ご利用者一人一人の特性に配慮しながら、それぞれの参加方法で、またそれぞれの楽しみ方をして頂けるようなイベントを企画して参ります。

ゆらくの里 生活支援員 服部 優樹

我楽 さぼーと班 一泊旅行 10月3日～4日

今年の我楽さぼーと班の一泊旅行は、「触れて！見て！楽しむ！」をテーマに大阪万博公園にある「ミュージアム ニフレル」&「大阪市立科学館」に行きました。

初日の「ミュージアム ニフレル」ではテーマ通りに動物や魚に見て触れて感動して、大いに楽しんでおられました。ホテルでの宿泊も普段と違う過ごし方にドキドキしながら明日の為にゆっくりと休まれました。

翌日は「大阪市立科学館」へ行き、動物や魚とは違う機械仕掛けの実験道具に触れて！見て！感動よりも驚きの連続です。誰もが不思議な仕掛けに興味津々でした。最後に大阪城公園に寄りゆっくりと気持ちを落ち着かせて帰りの準備です。

本当に楽しい事はあっという間に過ぎ去りますが、参加されたご利用者の表情は素敵な笑顔でいっぱいです。今から来年の旅行に思いをはせる帰り道でした。

我楽さぼーと班 支援員 安井 智之



◆ お知らせ ◆

7月8日より当法人のFacebook（フェイスブック）ページの公開を開始致しました。

各事業所の取り組みや行事情報などについて、法人のホームページと併せて情報発信を行っています。皆様からの「いいね」をお待ちしております。

■社会福祉法人 以和貴会 Facebook ページ
URL : <https://www.facebook.com/kashiba.iwaki/>



《賛助会員ありがとうございました》

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただきます、ご利用者のために使用させていただきます。

《ゆらくの里》

増尾明広、堀井信裕、中村清子、片上芳子、中筋廣次、西風美智子

《業者ほか》

山口ガス商会 山口貴志、原田フーズ、(株)タクサン 谷本淳、田原建設 田原清史

(順不同、敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋とありますが、どのような秋をお過ごしでしょうか？
猛暑だった夏も過ぎ、少しずつ秋の気候となってきました。季節の変わり目で、体調を崩される方も多くなってきます。風邪をひかないよう身体には十分気を付けましょう。

発行：社会福祉法人 以和貴会
住所：〒639-0261 奈良県香芝市尼寺6 1 6 番地
編集責任者：理事長 下村 卓司
Mail： office@yuraku.or.jp
発行：平成28年10月